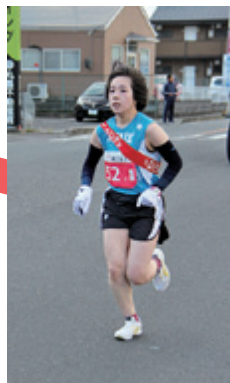


1区



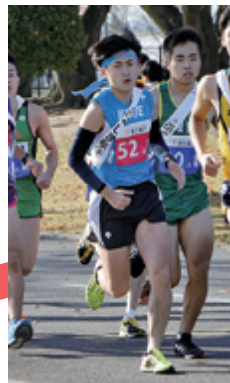
2区



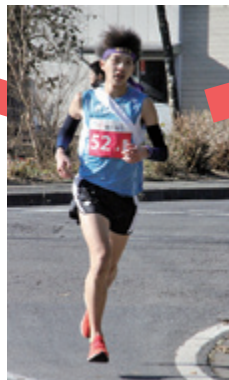
ふくしま駅伝 飯舘村チーム

10連覇を含む13回の村の部優勝という記録を持つ飯舘村。震災後も避難先から選手が集まるなどして、2度のオープン参加を経験しながら単独チームでの出場を続けてきました。若い選手の積極的な参加に支えられ、今年も熱い走りで村民を勇気づけました。

5区



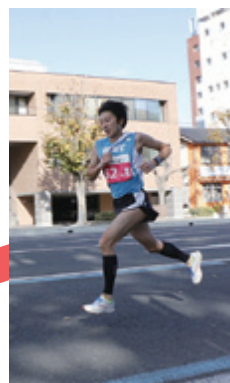
4区



3区

神代優太 選手
駅伝に参加し、高校でも陸上を続けている。駅伝がなかったら今の自分はいない。

16区



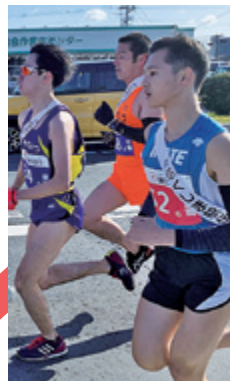
15区



14区



6区



7区



8区



9区



10区



村の部・区間賞！

震災以降、結果が出せていなかった中で、区間賞を取ることができた。駅伝を始めた中学生の頃は走力が不足していたが、続けることで力をつけてくれた。中高生にもぜひ続けてほしい。これからも、村のチームで走り続けたい。

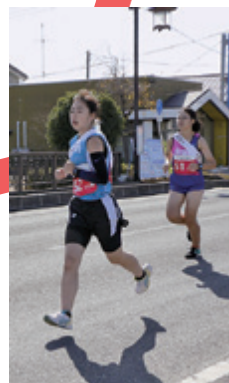
大内龍太郎 選手
中学生から18回出場！



13区



12区



11区

細杉睦輝 選手
中学時代に参加した駅伝が人生を変えてくれた。次回大会に向けて、区間賞を取りに練習していきたい。今大会で終わりにたくない。



ふくしま駅伝

第31回市町村対抗
福島県縦断
駅伝競走大会

age 選手は
12歳から37歳

11月17日、第31回市町村対抗県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）が、白河市をスタートし、福島県庁前までの16区間、94・8kmで行われました。村は、中高生を中心とした若いチームで臨み、全区間を力強く走り抜きました。結果は、記録6時間23分23秒で総合順位53位。村への想いを胸に走り抜いた選手達のレースを振り返ります。

村のタスキが 仲間の想いをつなぐ

大会前の結団式で、「選手の名前を呼んで応援してほしい。応援が力となり背中を押してくれる」と呼びかけた林総監督。その言葉に込めるように、「52」のゼッケンを胸に走る村チームのランナーには、沿道から大きな声援が送られました。放課後や休日、「いいいてスポーツ公園」などで練習に励んでいた中学生選手も、大会に駆けつけた「ふるさと選手」も、声援にこたえて、懸命の力走を繰り返しました。

そして、全選手が完走。解団式では、関係者が選手の健闘をたたえ、選手もまた一人ひとりが、家族スタッフ・関係者に感謝を伝えました。佐藤監督は、「選手が本当によく頑張ってくれた。次回以降の大会にも出場したい。走ることが好きな仲間と一緒に走り続けたい」と、力強く来年への抱負を語りました。